

3-11

演題	記録システム導入による負担軽減と課題
副題	～介護職員記録業務の残業ゼロを目指す～

法人名	社会福祉法人 若竹大寿会
施設名	介護老人福祉施設わかたけ南

発表者名 (職種)	永峯 宏 介護職員
共同発表者	奥村 萌子
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	横浜市南区 山谷 115-5
TEL	045-315-4155
FAX	045-315-4775
メールアドレス	tokunaga_toshihiro@wakatake.or.jp
URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	横浜市南区に 2020 年に開所した特別養護老人ホームです。 定員は 160 名（うち、併設ショートステイ 10 名）。 「職員は一丸となって人を幸せにします」の法人使命のもと、自分自身が利用したいサービスの 実現に努めています。
---------------------------	--

研究の目的、PR ポイント

働く介護職員の残業時間を減らして職員の負担を軽減し、モチベーション維持に繋がることを目的とした。記録システム導入が以前と比べてどう変化をもたらしたか多方面より検証した。

取り組んだ課題

丁寧で思いやりのある介護を心がけると相応の時間を要する。文章が苦手な職員、効率的に動くのが苦手な職員にとっては勤務時間内で業務を終わらせることが困難であり、慌てれば重大な事故に繋がりがかねない。どうすれば限られた職員数で時間を作れるか考えた時、負担となっている記録業務の改善を考え、記録システムの導入に至った。

具体的な取り組み

同法人内事業所で記録システムを導入していない施設と導入している施設全体の残業時間、記録にかかる残業時間を比較した。そして導入された当施設では記録に時間を使わないことで空いた時間をどのように活用できているか、また導入したことでどれほどの人件費が削減されたのか、職員のモチベーションにどう変化をもたらせたのか検証していく。

活動の成果と評価

活動の成果

〈導入前〉

- 一人当たり一月で平均およそ 10 時間から 15 時間の超過。
うち 8 割から 9 割が記録の為の残業。
- 業務を終えることで手いっぱい 1 日が終わってしまう。
- 残業代が常勤職員を数名雇えるほどの人件費となっている。
- 職員は、毎日記録を全員分残さなければならず超過を覚悟して業務に入る。

〈導入後〉

- 記録による超過がほとんどなくなる。
一人あたり一月で平均 15 分から 30 分程度。
業務内で記録を行いながら動けることによりご利

用者に寄り添った
ケアが可能。

- 入力が選択式なので誰もが効率的に行える。
- 職員は記録に対して困ることがなくなり、以前よりゆとりをもって業務に当たることができるようになった。
- 個別ケアの充実や個別リハビリの実施、感染対応下での外出レクや食べ物レクなど職員も一緒に楽しんで仕事することができるようになった。
- 人員配置 2, 5:1 の導入、有給使用数 30% Up。

評価

必要な記録をシステム化したことによりご利用者との時間を楽しめる環境に近づいたが課題も残る。

今後の課題

介護記録を ICT 化するには職員全員が使えるようにしていく必要がある。開所から 3 年経つが未だ手書きでメモや連絡ノートを活用する職員もおり、職員全員が使いこなすにはまだまだ時間が必要だと考える。そしてこのシステムの運用を安定させるには苦手意識のある職員に対し、実際に学びながら一緒に使用することで方法を伝えていく。また、マニュアルを用意し、いつでも見直せるようにする必要がある。そして現状のシステムでより効率的に操作できるよう課題抽出と改善を繰り返していく必要があると考える。

参考資料など

- 厚生労働省 都道府県労働局 労働基準監督署
介護労働者の労働条件の確保・改善のポイント
- 早坂裕哉
介護記録を ICT 化するメリット・デメリット
- 株式会社 NK カスタマイズ
記録システムを導入するメリットと注意点を解説！